

学びの多様化学校の設置

1 要 旨

2026年4月の開校に向け、学びの多様化学校の設置準備を進めています。施設の改修や備品の手配にかかる経費については、静岡市議会6月定例会に補正予算案として上程し、静岡市議会にて議論をいただくところです。

今後、学校運営や教育内容等について様々な点を整理し、準備をすすめ、文部科学省の認可を得たうえで正式に設置が可能となりますが、本日は、設置の理念や、現時点で想定している構想などについて、市長定例記者会見を補足して説明します。

2 学びの多様化学校設置に向けて

静岡市の目指す学校の姿

「すべての子どもが自分らしく学び、“やってみたい”が広がる学校」

静岡市の目指す子どもの姿

「自分らしく学び、仲間と学びを深める子」

学びの多様化学校においても、静岡市の目指す学校の姿、子どもの姿は、同じです。

ただ、学びの多様化学校では、子どもに合わせた特別な教育課程を編成することができるため、より子ども達一人ひとりの興味・関心や学びのペースに合わせた環境を構築できます。そこで、学びの多様化学校の設置にあたっては、次の3つの理念を大切に組み込んでいきたいと考えています。

(1) 安心できる場所であること

- ① 「自分らしく、ありのままの自分」でいられる場所である
- ② 自分のペースで、自分の安心できる場所で、一人でも、誰とでも、そして何度でもチャレンジできる
- ③ いつでも、近くに応援してくれる大人がいる

(2) 自分の「好き」や「興味・関心」を見つけられる場所であること

- ① 多様な学習内容や学習方法、学習環境を整える
- ② 一人ひとり異なる「好き」や「興味・関心」に寄り添い、それらを深める支援がある

(3) 仲間や周囲の大人とつながり、自信をもって自己選択、自己決定ができること

- ① 多様な仲間や大人とつながることを通して、自分を知り、他者を知る
- ② 身近にある課題等に気づき、当事者意識をもちながら、仲間と共に解決していく

3 学びの多様化学校の概要

静岡市立新通小学校の空き教室（東校舎3階、4階）を活用し、静岡市立末広中学校の分教室として、学びの多様化学校を設置し、ここでは、特別な教育課程を編成し、教育活動を実施します。

生徒は、市内全域から転入学を受入れ、静岡市立末広中学校の生徒として通学し、管理職は、静岡市立末広中学校の校長・教頭が兼務する予定です。教員は、分教室に常駐する教員のほか、教科によって、末広中学校や新通小学校との兼務により対応する予定です。

静岡県内において、現時点での設置は無く、他市町の次年度以降の設置意向については把握していません。

4 特別な教育課程を編成するうえでの2つの手立て

- ① 個人個人の学習のつまずきに立ち戻って、いつからでも、どこからでも学び直しができる
- ② 自分の行動や経験を客観的に振り返り、自己理解を深めるリフレクションを活かした非認知能力を高める取組

特別な教育課程を編成するにあたり、2つの特徴的な手立てを組み込んでいくことを考えています。

静岡市の2023年度の「不登校児童生徒が教員に相談した内容」では、「学業の不振・宿題」に関することの割合が最も多い結果となっています。（図1）

これは、全国と比較しても高い割合となっており、学業の不振や宿題などに悩みを持つ児童生徒が多いことがわかります。個人個人の学習のつまずきをきちんと把握し、立ち戻ることができることが重要です。そこで、“学び直し”により、社会的自立に向け、基礎学力の定着を図って欲しいと考えています。

次に、同調査では、全国的には、「やる気がでない」や「不安・抑うつ」の割合が高く、静岡市でも多くの相談がありました。これは、児童生徒本人も居心地の悪さは感じているものの、直接的な原因がわからない、言語化できていない状態を示しています。

そこで、2つ目は、自分の内面を客観的に振り返る“リフレクション”を通じて、自分自身だけでなく、他者への理解も深め、社会的自立に向けて、生徒の成長を促していくことです。これにより、非認知能力（学力テストなどで数値化できる認知能力とは異なり、意欲、協調性、自己理解など数値では表せない内面的な力（図2））を高めることを目指します。

図1：不登校児童生徒からの相談内容

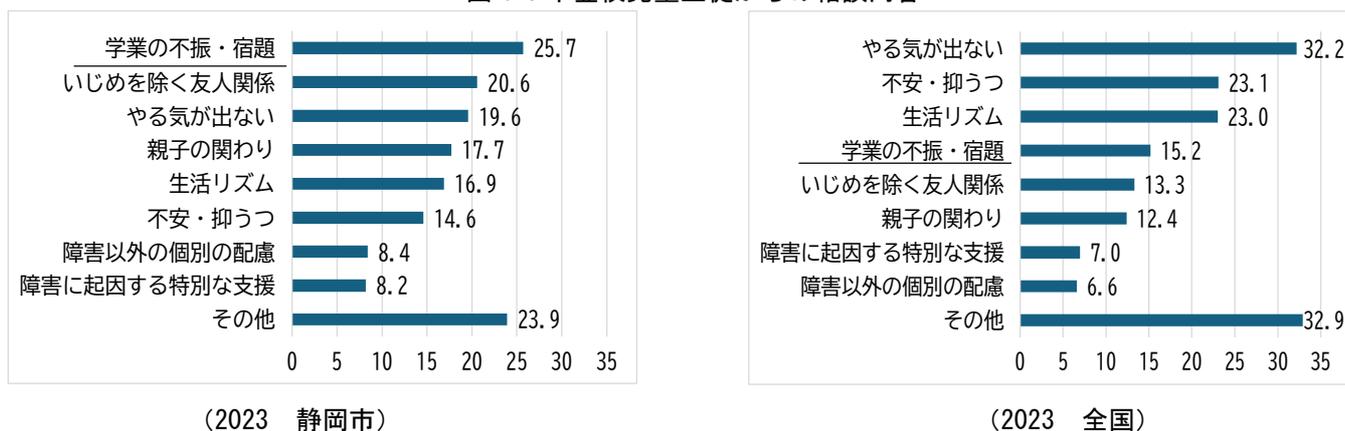


図2：認知能力と非認知能力



5 特別な教育課程づくり

現在、学びの多様化学校（末広中学校分教室）のための特別な教育課程の素案を作成し、文部科学省と協議を開始しております。

現在の素案の段階では、授業時間数を通常の1,015時間から1割以上削減するとともに、授業時間を50分から45分に短縮するなど、授業時間を減らすことで、朝の登校時刻を遅らせることを予定しています。その中で、個別進度学習による学び直しの時間やリフレクションの時間を確保していきたいと考えています。

6 受入れ予定の生徒

学びの多様化学校（末広中学校分教室）は、各学年1学級の3学級編成を予定しており、1学級の生徒数の想定を16名程度と考えています。

通学を希望する生徒は、可能な限り受け入れたいという思いはありますが、少人数の学級において、個に応じた支援を充実させるため、現時点の目安として、先進他都市の事例などから16名程度を想定しています。ただし、希望者の状況により多少の増減には対応していきたいと考えています。

また、学びの多様化学校は、不登校児童生徒に配慮した特例校となりますので、不登校の実態の無い生徒は、受け入れの対象外となります。

7 通学を希望する生徒の選考

選考試験等は実施しません。在籍校で不登校の実態があり、かつ学びの多様化学校（末広中学校分教室）に通学する意思がある生徒を受け入れます。

ただし、学びの多様化学校に継続して通学するためには、保護者のご協力が必要不可欠です。このため、入学の前に、生徒本人および保護者の面談を実施し、教育委員会に設置する検討会等を経て受け入れ生徒を決定する予定です。

8 今後の予定

現在は、準備段階であり、教員の配置に関することや給食に関すること、学校行事に関する事など、今後、検討すべき事項は多岐にわたります。一つずつ整理し、2026年度の開校に向けた準備を進めていきます。

また、9月以降随時、学校説明会や保護者・生徒の相談会等を開催していきたいと考えています。正式な生徒募集については、文部科学省との協議、認可の手続きの進捗に合わせ実施していきます。

説明会等の詳細、その他については、決まり次第、ホームページ等にて周知していきます。

（静岡市不登校支援関連ページ）

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s8273/s013043.html>